

| | | | |
|----------|--|-------|-------|
| 1月 | モニターレポート | 担当出張所 | 山崎出張所 |
| 担当区間 | 檜尾川合流点～大阪京都府境（阪急大山崎駅付近）（右岸28.2～35.4km） | | |
| モニター実施日時 | 令和 2年 1月30日（木） 14:00～16:00 | | |
| 天候 | 晴れ | | |

（見出し）暖冬の影響？春の兆し

今回は、檜尾川と淀川の合流点に行って参りました。この地点は高槻のクリーンセンターの近くで、工事が盛んに行われています。モニターを行った日は晴れていて、今冬の暖冬の影響もあり、非常に心地よい天気でした。

この合流地点はエサがたくさんあるのか、カワウやカルガモがたくさん戯れていました。また水辺に分布するアキニレ（ニレ科ニレ属の樹木。秋に開花する。果実は翼果。）も生えており、日本の水辺の環境がしっかり残っていました。

土手には既にオオイヌノフグリ（オオバコ科クワガタソウ属）やカンサイタンポポ（キク科タンポポ属）が咲いていて、これから昆虫や鳥の活動、そしてヒトの動きも活発になっていくんだらうなあと考えていました。

今回は最も川沿いの道を歩いたのですが、釣りをしに来ている人が少なからずいて驚きました。途中、貯水池？のような窪みがあって、今は使われていないのか、用途が分からずに（悪い意味ではなく）もやもやした場所がありました。またクリーンセンターの近くの川の中の囲い？も何かよくわかりませんでした。もうすぐ2月なので、ヨシ原焼の前後の変化を楽しみたいと思います。

今月は写真をたくさん載せたいので、以上にします。



クリーンセンター



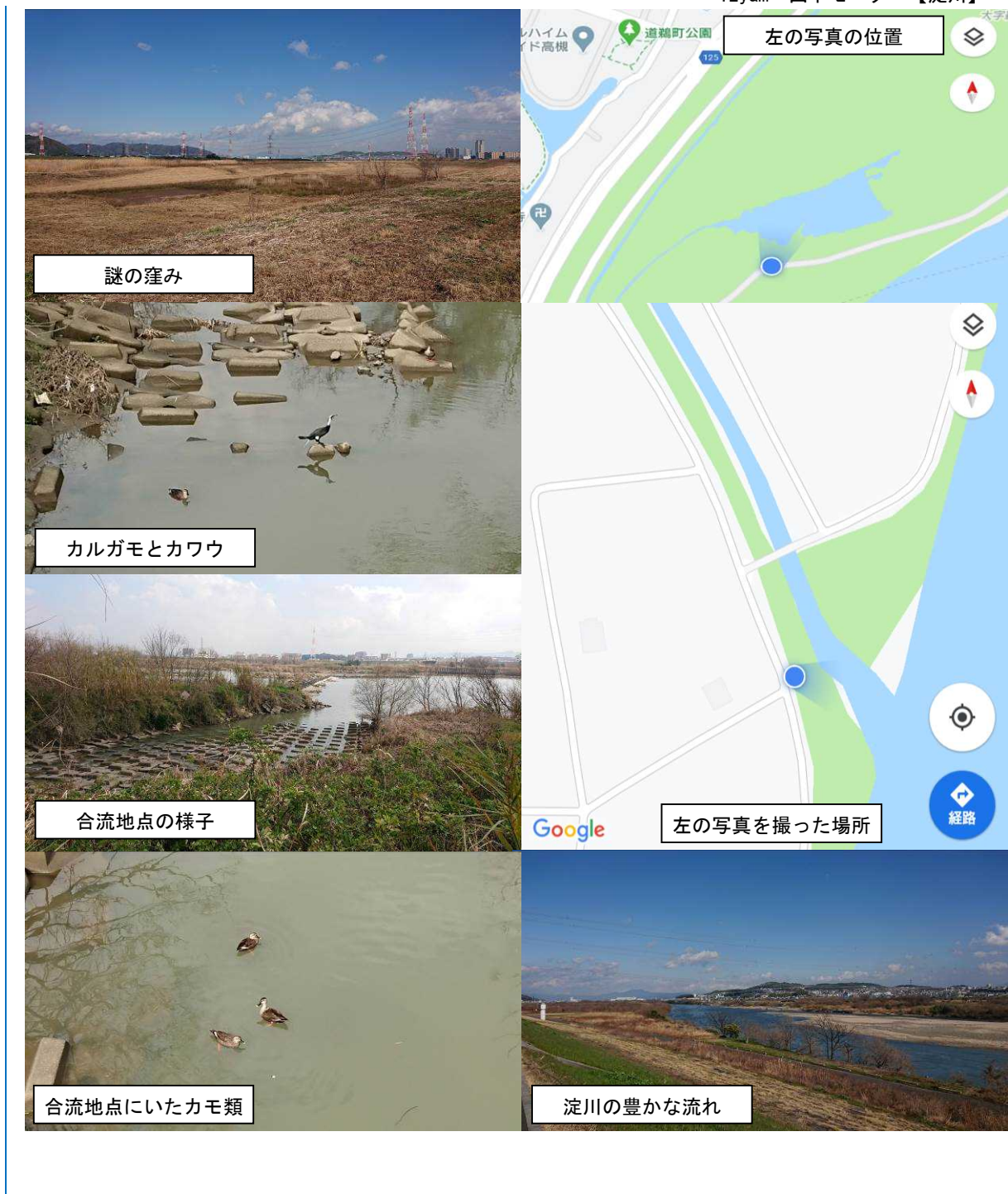
謎の囲い？



アキニレの翼果



土手の植物たち



(意見・感想・処置等)

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

位置図付きでたくさんの写真撮影、ありがとうございます。とても分かりやすいですね。今冬は、体感的に寒い日もありましたが、やはり暖冬のように、いつシャッターチャンスが訪れるか分からないバードウォッチャーの皆さんにとっては、待機しやすい気候かもしれません。また、山崎管内では、釣り人の方も、ちらほら見かけます。例年、春が訪れる頃には、もっと多くの方で河川敷が賑わっていますので、冬とはまた違った一面を垣間見ることができると思います。

冬芽は地味で目立たない「秋楡（アキニレ）」ですが、注意深く観察してみると、気付くものですね。関西よりももっと北の方では、「春楡（ハルニレ）」が生育しているようで、植物の中で自然と棲み分けがなされていることに、思わず感心してしまいます。写真の黄色い「たんぼぼ」、青色の「大犬の陰囊（オオイヌノフグリ）」も、冬の河川敷を彩る花たちですね。また機会があれば、アップの写真なども掲載いただけると幸いです。

さて、もやもやと疑問に思われた「貯水池のような窪み」ですが、これは鵜殿ヨシ原を切り下げているものです。高水敷の干陸化によりヨシ原が減少したので、ヨシ原の復元を図り、生物の生息、生育、繁殖環境の創出を目的として、高水敷を切り下げている淀川河川事務所の事業の一つです。今年度は工事を実施しませんでした。来年度は切り下げ工事を予定しています。

また、「高槻クリーンセンター」付近の河川内にある「囲い」ですが、ワンドと呼ばれているものです。水の力により自然にできた「たまり」と呼ばれるところもありますが、それに比べて「ワンド」は、もともと人の手によって出来たものなので、区別しています。また、従来のワンドは、水制（川の流れを曲げるための土木構造物）に土砂が溜まって自然にできたものですが、このワンドは、すべてが人の手によって作られているので「人工ワンド」と呼んで区別することもあります。

今月も淀川の魅力満載レポートありがとうございました。来月、2月23日（日）には、鵜殿の『ヨシ原焼き』もあります。年に一度のことですので、ご都合よろしければ、ぜひ足を運んでみてください。それでは、来月もまた、レポートをお待ちしています。